

令和5年度 学校自己評価シート ※ 評価基準：5(達成できた) 4(概ね達成できた) 2(あまり達成できなかった) 1(達成できなかった)

【目指す学校像】
「真理 正義 敬愛 自律 実践」の理念のもと、基本的生活習慣と主体的に学ぶ力、命や人権を大切にすることを備え、社会の変化に対応し、地域の発展に貢献できる人材を育成する。
【教育目標】
「もう一度基礎から学びたい」「地域や仲間とつながりたい」「働किながら学びたい」の3つの思いを成長の糧とし、自己の未来を見据え、地域の発展に貢献できる生徒の育成

- 領域 (スクール・ポリシー)
- ① 基本的生活習慣と規範意識を確立するとともに、他者と協働する力を育む。
 - ② 自らの進路や自己実現に向けて、主体的に学ぶ態度を身につける。
 - ③ 社会の変化に対応して、自ら判断し、行動することができる力を育成する。
 - ④ 命や人権を尊重し、自他共に大切にすることを育む。
 - ⑤ 生徒の内面理解に努め、生徒の心に寄り添った、教育相談や生活指導に取り組む。
 - ⑥ 対話を重視した少人数指導により、基礎・基本を定着させる学びを展開する。
 - ⑦ ICT機器の活用と授業のユニバーサルデザイン化に取り組む、「誰もが分かる」授業を行う。
 - ⑧ 職場や学校見学・就業体験などの体験活動を重視し、体系的なキャリア教育を推進する。
 - ⑨ 教科横断的・総合的な学びを通して、協働的な課題解決の方法を身につける。

全体の平均
A: 5.0~4.0
B: 3.9~3.0
C: 2.9~2.0

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	評価指標に対する成果	評価平均	評価	課題・改善の方策等
総務	1	③④⑨	様々な事柄について学べる機会を設定するとともに、豊高定時制のPRを行う。	校外との接点を、学校行事を通して開拓する。オープンハイスクール参加者アンケートの評価の半数以上が「大変良い」となることを目標とする。	全体を通しての満足度は、第1回25%、第2回66.6%、第3回49.8%であり、目標は達成できなかった。特に8月のオープンハイスクールでは、学校説明や体験授業については高評価だったにもかかわらず、評価が低かったため、開催時期等他の側面についても検討していきたい。課題も多いが、今後より意味のある行事を計画・実行していきたい。	3.6	B	オープンハイスクールでは、空調の効きやすい教室を検討するなどしていくとともに、授業担当の指導者が、授業内容を選定・準備ができるよう促していきたい。また、看板や幟を準備し、掲示物についても検討していきたい。今後も生徒の状況に合わせて、有益な学校行事が行えるようにしていく。
教務	2	②⑥⑦	生徒の主体性を高めるための「興味・関心をひく工夫」を取り入れた授業づくりの促進に向け公開授業期間を設定し、教員全体の指導力の向上を図る。	公開授業後の生徒アンケートにおける「授業に主体的に取り組んだ」の項目と、教職員アンケートにおける「公開授業の取り組みが授業づくりに役立った」の項目それぞれにおいて肯定的な意見が全体の80%以上となることを目指す。	公開授業後の生徒アンケートにおける「授業に前向きに取り組めた」の項目での肯定的な意見が97%、教員アンケートにおける「公開授業が指導力向上につながった」の項目での肯定的な意見が83%となった。公開授業は普段行っている授業での工夫を共有するために実施しており、その目標はある程度達成できた。今後は教員に向け学習指導法に関する情報提供にもより力を入れた。	4.3	A	前年度の授業アンケートで肯定的な評価が比較的低かった「主体的に取り組める授業づくり」を推進するため、「興味・関心をひく工夫」をテーマとして設定した結果、今年度はアンケートの評価が改善した。引き続き、授業アンケートを活用した生徒・教員のニーズの把握に努め、来年度の重点目標の設定に生かしたい。さらに来年度は職員研修の実施を含め、教員の授業力向上に資する情報提供を拡充することに力を入れたい。
生徒指導・保健	3	①⑤	校則に基づいて、全職員で一貫した生徒指導を行い、基本的生活習慣を確立させる。	学校生活のきまりの周知を徹底する。毎日立ち番指導を行い、生徒の心身の状況把握を行う。また、学校生活アンケートや校則に基づき、人権侵害に関する問題行動の件を目指す。	校則や学校内でのルールを守っていますかという質問に対して、そう思う(どちらかといえばそう思う)と回答した割合が90.4%から96.4%に上昇した。日々の生徒との関わりを大事にした結果である。毎日の立ち番も担当日以外でも積極的に立ち番を行う職員が多かった。重大ないじめ案件は0件だが、普段の生活で気になる言動に対する指導を今後も続けていきたい。	4.0	A	毎日の立ち番指導は生徒の実態把握と生徒理解に対する効果があったため、来年度以降も継続する必要がある。また、夏休みに職場訪問するなどして、より生徒理解に努めたい。心のサポート実践研究として始めた「目標設定&振り返りワークシート」の活用を継続し、生徒に自身の成長を実感させ、他者から承認される機会を作ることによって引き続き「自尊心・自己有用感」の醸成を図りたい。校則の見直しを進める中で、新たに改定したことの職員の情報共有を徹底し、さらに一貫した指導ができるようにしていきたい。
	4	①⑤	心身の健康問題の改善に向けた指導の充実を図る。	保健だより等による啓発や個別指導、また保護者との連携を図り、要受診者(定期健康診断結果)に対する受診率の向上を目指す。また、メンタルヘルス講習会や性教育講演会などを通じて、健康への関心を高める。	定期健康診断結果の要受診者に対する受診率は、内科・尿検査については100%であったが、歯科・視力検査については約20%と低く、早い時期での周知・指導の徹底が必要であるという点に課題が残った。また、生徒対象の講演会では性・命の大切さやストレスの対処法、精神疾患について理解を深めることができ、心身の健康問題について考えるよい機会となった。	3.2	B	歯科・視力検査の要受診者に対する受診率の低さに課題が残った。これまで行ってきた取組以外にも、歯科衛生士・視能訓練士等による講演会の実施や受診勧告書の配布回数・色付き用紙(2回目黄色・3回目ピンク)の配布等についても検討し、受診につなげていきたい。
進路指導	5	②⑧	全ての生徒が希望の進路を実現できるようにする。卒業年度の前年度までにインターンシップやオープンキャンパスへの参加を促し、個々の希望や適性に合わせた進路選択ができるようにする。	生徒アンケートの「本校の進路指導に満足しているか」という項目で、「そう思う」という回答が80%以上になることを目指す。	生徒アンケートの「本校の進路指導に満足しているか」という項目において、「そう思う」と回答したのは第1回32.3%、第2回28.6%にとどまった。大半の回答が「どちらかと言えばそう思う」であり、その要因として、1・2学年対象の行事の手薄さや進路指導部の取り組みの認知度の低さが挙げられる。	3.0	B	4年間の進路指導の指針(進路実現へのステップ)を作成し、教員に周知するとともに、各学年のHRで行うキャリア学習の計画を依頼する。また、年度当初のオリエンテーションの機会に進路指導の指針や取り組みを周知したい。また、1・2年のキャリア教育の充実については、①企業見学の対象学年を3・4年から2~4年に広げ、②希望者はインターンシップを1・2年次から行うことをその方策としたい。
4年	6	①③	卒業後、社会的・経済的に自立した生活を送れるようにする。	目標達成シートを用い、自ら決めた項目に対して、達成できていたかどうか振り返りを行う。	毎月末にHRの時間を利用して目標達成シートに記入する時間を設けた。定期的に自己の取り組みの振り返りができたことが成果として挙げられる一方、自己を客観視する能力が乏しい生徒も見られ、そのような生徒にとっては振り返りの効果は薄かったのではないかとと思われる。	4.2	A	振り返りにおいては、自己評価だけでなく他者評価の観点を取り入れ、自己評価と他者評価のずれと向き合うことで自己を客観視する力が身につくのではないかと考える。コミュニケーションワークの活動をHRに取り入れ、クラス内で生徒間の投票による賞を作って表彰したりして、「他者の中にいる自分」という意識を養いたい。
3年	7	①②③⑤	自分の進路について自分と向き合い、社会人として自律するための力をつけるとともに、相手の立場や気持ちを考えて、他者と良好な関係を築けるようになる。	個々の自分自身の課題を見つけさせ、学期末にどれだけ達成できたか、振り返りを行う。行事や日直の仕事において、お互いに協力し助け合う心を養う。宿泊行事を通じて、集団行動や思いやりの心を育む。	振り返りでは、自己を見つめることができたが、目標を立てることに苦戦している生徒が多く見られた。対話を通じて見つけていきたい。日直以外が積極的に手伝う様子が見られた。修学旅行では、大きな予定変更もなく、ルールを守って行動することができた。	4.4	A	これからのことを想像するのが難しい生徒に対して、対話形式で考えさせたり、お互いに話す中で目標を見つけられるような仕組みを作ってみたい。学年の中の親睦は深まっているが、他学年との関りを苦手とする生徒も多いので、学校行事を通じて話すきっかけづくりができるような働きかけをしていきたい。また、進学・就職に向けて個人面談を積極的に行うことで意識を高めていきたい。
2年	8	①②③	一人一人が選択したことや役割に対し、責任をもって取り組む。	個々の生徒が、自らの決断や与えられた役割について意識し、なるべく自分の力で最後まで取り組めるよう促す。	生徒一人一人が、クラス役員や日直の仕事など、自らの役割を意識してそれぞれのペースで取り組ませることができた。時折、自発的に友人に協力し、役割を分担する姿も見られた。	4.1	A	自分の役割について、声をかけられないと自分が当番であることを意識していなかったり、取り組みが内容が今一つだったこともあった。今後は、一つ一つの取り組みについて、内容もより充実させるようにしていきたい。余裕をなく、目の前の課題について取り組みなくなるケースもあったが、なるべく早く落ち着ける方法を身に付けさせ、なすべき課題をクリアできるように指導・支援していきたい。
1年	9	①②	学校生活を送る上での基本的生活習慣を身につけ、主体的に行事や学習に取り組む姿勢をつくる。	各学期に学校生活や普段の生活についての目標決めと振り返りを行う。生徒自身が立てた目標が達成できるようにサポートを行うことにより、全ての生徒がいずれかの項目で肯定的な自己評価をつけることを目指す。	学級づくりによって、学校行事に前向きに取り組む雰囲気は醸成されたように感じる。学習に関しても、苦手を克服すべく主体的に取り組む生徒の姿勢が全体にも波及しつつある。2学期末の振り返りにおいて、学習・生活面の両方またはどちらか一方で自身の目標を達成できたか答えた生徒が89%にのぼった。	4.2	A	2学期の振り返りにおいて、学習・生活の両方において自身の目標を達成できたか答えた生徒は20%にとどまった。今後は適切な目標設定の指導と支援にさらに力を入れ、生徒自身が振り返りを充実させ、今後の見通しを持ってほしい。明るい雰囲気や授業や学校行事に取り組めるクラスの持ち味を生かしつつ、学習により集中して取り組める環境づくりもすすめていきたい。